

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台文学館
2 指定管理者	公益財団法人仙台市市民文化事業団
3 指定期間	平成29年4月1日～令和4年3月31日
4 施設の利用状況	《利用者数》 令和2年度 37,334人（前年度比△26%） 令和元年度 50,438人 平成30年度 54,225人
	《事業》 ・施設の管理運営 ・特別展等の企画及び開催 ・文学資料の収集、保管
5 収支の状況	《費用》 ・ 指定管理者に支払った費用 201,046千円 (204,027千円) ・ その他市が負担した費用 32,956千円 (1,016千円) 《収入》 ・ 使用料収入 3,457千円 (3,487千円) ・ その他収入 1,543千円 (1,404千円) ()は前年度決算額
6 利用者の声	《実施状況》 ・ ご意見箱を設置して、常時意見をいただいている。 ・ 特別展や企画展ごとのアンケートを実施。 ・ 施設利用者アンケートの実施（令和2年12月）

二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	施設の設置目的や基本方針について、職員間で共通理解がなされており、利用者へ対しても適切に周知している。展示だけではなく、文学関係者・団体との共催事業や文学について深く学べる講座を多彩な内容で実施しており、文学館の設置目的に合った取り組みを積極的に行っている。	27/27
II 施設の運営管理体制	職員の業務実績や配置、仕様書や事業計画に即した業務の実施状況等は適切である。また、経理について、帳簿の整理・保管や市への報告等、適切になされており、個人情報等の情報管理についても、市の規定に準じて取り組んでいる。災害発生時の対応について、防災マニュアルに基づく訓練を適切に行うとともに、災害時の情報連絡体制・役割分担も明示されている。	30/30
III 施設・設備の維持管理	屋内の管理については、法定点検のほか、職員による自主点検を実施のうえ、老朽化等による不具合等について早期に発見し、速やかに市へ報告がなされている。また、来館者の利用に不便が生じないよう、応急措置等についても速やかに実施しており、安全面や快適な利用環境の維持に対する意識が高い。屋外の管理については、近年大型の台風や豪雨が相次いでいるため、台原森林公園に隣接し、樹木に囲まれた環境であることから、倒木の点検を行い、速やかに市への報告を行うとともに、優先度を決めて伐採を行い、適切な管理がなされている。	24/24
IV サービスの質の向上	定例ミーティングや研修、OJT等により接遇や必要な情報をしっかり身に付けており、来館者に対し、親切丁寧な対応がなれている。情報発信についても、ホームページのほか、フェイスブック、ツイッター等SNSを効果的に活用することにより、幅広い世代へ情報が行きわたるよう取り組んでいる。	28/28

V 施設固有の基準	<p>《加点評価特記事項》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質の高い展示を行っている点について、新たな切り口での展示を行ったことによる来館者増の工夫や、市民の文学への関心を高めることに寄与した波及効果を評価したい。 ・若年層に向けた企画の充実など、来館者数の増加を図る取り組みを行っている点について、新型コロナウイルスの感染拡大防止に努めながら、延期となった展示の代替として小パネル展や企画を開催したこと、SNSを効果的に使用した広報等について、幅広い世代の来館者増に繋がる取り組みであると評価したい。 <p>《減点評価特記事項》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使用料・雑入の払込納入が翌々日になった件について、以後同様のミスが起きないように、複数人で確認する等適正な管理の徹底に努められたい。 	49/48
------------------	---	-------

三 評価総括

《指定管理者（（公財）仙台市市民文化事業団）による自己評価》
<p>施設所管課との定期的な打合せの下、関係法令や協定書等に基づき適切に施設の管理運営を行った。また、毎朝の事務連絡、毎週の各委託業者との事務連絡及び職員全員での情報交換により、連携して業務にあたることでスムーズに市民サービスを提供できた。</p> <p>入館者37,334人、イベント参加者5,651人、観覧者9,270人で前年度に比べ減少した。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、休館期間や中止した展示・イベントがあり、また外出自粛の動きがあったためと見られる。</p> <p>春の「佐左木俊郎展」では、チラシ等にイラストを採用した効果から、若い世代の来館者があり、漫画とのコラボレーションの可能性を示すことができた。夏は妖怪イラストを募集する企画等を開催。幅広い層から作品が寄せられ、当館の存在をアピールできた。秋の「安野モヨコ展」では、漫画全作品を撮影可としたところ、来館者がSNS等で情報発信し、当館ツイッターとの相乗効果が生まれた。冬の「佐野洋子展」では、絵本作家として知られる同氏をエッセイストの側面から紹介する独自の切り口が奏功し、熱心な来館者が多く、関連書籍等の売れ行きも好調であった。</p> <p>講座等では、今年度就任した佐伯一麦館長の新企画「北根ダイアログ」で定員を超える参加希望があったため、今後放映できるように記録撮影を行ったほか、当館初のオンラインでのトークイベントも開催した。</p> <p>資料の収集・保存については、購入1,004点、寄贈928点である。総数は約13万5千点となり、多くの信頼を得て実績を重ねている。</p> <p>今後の課題として、事業面では観覧者（特に若年層）増に向けた取組を多角的に検討し、施設面では開館から20年経ち、特に建物本体、空調、天井窓ガラスに経年劣化が原因で不具合が頻発しているため、市と協議をしながら令和8年の大規模改修を見据えて計画的に修繕し、的確に対応していきたい。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>施設運営については、開館や施設貸出、帳簿等の整備保管、保守点検や設備修繕・清掃等を含む施設の維持管理、個人情報保護や情報セキュリティ・情報公開への対応、事故や災害時等の危機管理体制の構築、その他必要な書類の整備、諸手続き等、関係法令や協定書に基づき、いずれも適正に実施されている。定例ミーティングや研修等を通して、業務の手順や必要な情報について職員間で共有されており、組織的な運営管理体制が構築されている。その一方で、使用料等の払込納入が所定の期日までに行われないことがあった件については、今後職員複数人で確認する等対策を講じ、公金の取扱いについて管理の徹底に努められたい。</p> <p>令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、臨時休館となった期間（令和2年4月11日～5月17日、令和3年3月26日～5月11日）があったが、開館中は感染拡大防止対策を講じ、安全な施設運営に努めていた。加えて、次年度に延期となった夏休み企画「こども文学館」の代替となる小パネル展やイラストを募集する等、コロナ禍でも市民が文学に親しめるような工夫を凝らした企画を実施していた点が評価できる。また、漫画家の安野モヨコ氏やエッセイストとしての佐野洋子氏を紹介する特別展は、仙台文学館の従来の来館者層であるコアな文学好きの方々以外にも訴求する内容となり、新たな来館者を獲得する取り組みとして評価に値するものであった。また、SNSの活用を図ったことは幅広い世代に訴求するツールとして有効であり、今後も積極的に活用し、情報発信に努めていただきたい。</p> <p>講座等についても、職員と市内外の文学関係者とのネットワークやこれまで構築してきた信頼関係のもと、様々な講師を招いて、幅広い視点から文学を学べる講座を実施し、市民の教養の向上に寄与する取り組みであったと言える。</p> <p>今後も安全安心な施設運営に努めるとともに、同館の魅力を広く発信し、市民の文学への興味関心を醸成する展示や講座の企画に努めていただきたい。</p>	S

四 その他特記事項

（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項